アジア特許情報研究会 10 周年記念に寄せて

安部佐和子（出光興産株式会社）

アジア特許情報研究会が発足から 10 周年を迎えられましたことを心よりお喜び申しあげます。この 10 年間、我が国始め世界を取り巻く経済・社会の構造は大きく変化しております。中国経済が大きく成長し、日本企業のアジア諸国での事業展開が加速しています。それに伴うアジア各国における知財戦略の策定のため、より有用な知財情報を収集・活用する必要があり、企業の情報担当者として気が引き締まる思いです。

振り返ると、私がまだ駆け出しの情報担当だった 2003 年、初めて社外の研究会（化学系企業の知財情報研究会）に参加し、JSR株式会社（当時）の伊藤様（現：アジア特許情報研究会代表）と共に取り組んだ研究テーマが思い浮かびます。その頃の研究の主流は、特許情報の整備された国（日本、米国、欧州）の特許について、限られたデータベースの中から、如何にデータを正確に取り出すかということであったと記憶しています。具体的には、各国特許の主要データベースへの収録状況や分類コードの付与状況の検討が主な研究テーマでした。これに対して、私達が取り組んだ研究テーマは、「英文データベースにおける中国等アジア諸国特許の収録状況」と題し、アジア諸国の特許収録率を確認するという内容でした。当時、あまりの収録率の低さに驚きながらも、アジア諸国への国内企業の出願は少なく、まずは日本や欧米企業のみ注視しておけばよいと考えていたことを思い出し、今更ながら時代の変化を感じています。そして何よりも、競合関係ともなり得る他社の方々との研究活動に初めは戸惑いながらも、企業知財として共通の課題に協調して取り組んでいくことの重要性を学ばせていただいたのはこれらの研究活動を通じてであったことが、今では懐かしく思い出されます。

さて、冒頭で述べた通り、近年更なる事業のグローバル化、競争激化に伴い、知財情報活用の重要性は一段と高くなってきております。また、各国特許庁の情報ソースは充実する傾向にあり、第 3 次人工知能ブームも相まって特許情報に関するツールも急激に進化しています。近い将来、ツールを用いて特許情報の調査、整理、分析が半自動的にできるようになる日もやってくるかもしれません。今は十分にデータが整備されていないアジアの国々についても同様な動きが見込まれますので、貴研究会の重要性は一層高まってくると考えます。私も、各国特許庁データベースの状況や日進月歩で変化するツールを注視しつつ、企業の情報担当者のあるべき姿を追求すべく自己研鑽に励みたいと考えております。

末筆ながら、アジア特許情報研究会の一層のご発展と皆様方のますますのご活躍を祈念致しましてお祝いの言葉とさせていただきます。

(2018/9/3 受理)